



スリランカ

～旅行からビジネスまで～

会員 宮川 拓 (66期)



コロombo市内

皆さまはスリランカのことをご存知だろうか。よく知らないという方が大半だと思う。かく言う私も何も知らなかったが、前職で企業内弁護士として2年間現地（コロombo）に駐在して働く経験を得た。そこで、2年の駐在で知った魅惑の南国・スリランカについて紹介したい。

おおまかにいうと

スリランカは、インドの南東にある島国で、広さは北海道の4分の3くらい、人口は2000万人程度。多民族国家で、公用語は、シンハラ語、タミル語、英語である（法令等も基本これら3語で出される）。仏教徒が70%程で最も多い。気候は年中温暖ですごしやすい。

とりあえず行ってみる

日本から直行便がある。成田から片道7～9時間で着く。国際空港から最大都市コロomboまでは車で1時間弱、高速道路で行けるため楽である。が、一般道の運転は荒い。逆に高速道路の運転は荒くない。ただし、高速道路の運転中に居眠りをする運転手もいるので、道中寝ないことをお勧めする。空港にSIMが売っており、SIMフリー携帯を持参するとよい。

どこに行くか—旅行

世界遺産は8つあるので、行く場所には困らない。旧跡好きは文化三角地帯、アクティブ派は海でサーフィン（サーフボードは安いレンタルがある）、涼しい所で紅茶やゴルフを楽しみたい人はヌワラ・エリヤ、動物好きならヤーラでサファリを楽しむことができる。どれも素晴らしい。が、次の点に注意。地図はGoogle Mapが最も精度が高いが、それだけに頼って運転手に指示し突き進むと山道に迷い込み冗談抜きで死にそうな思いをする。高地は寒いので、長袖上下を持参するのがよい。ワンプッシュ蚊取りがあると蚊に悩まされず快眠が期待できる。

人・まちの雰囲気

スリランカの人は陽気で優しく世話好き、裏返せば「テキトー」。東京では人がぶつかると陰悪ムード漂うが、スリランカでは会話が始まるという雰囲気、知らない人同士も平気でお喋りをする。また、ドライブ途中で道に迷っても、道ゆく人に尋ねると誰でも行き方を教えてくれる。が、道が合っていないこともある。貧しそうなお金に人を寄附する人も結構いる。事故があると人が集まって話し合ったり手伝ったりする光景も見られる。

まちにごみは落ちていない。都市部は近代的だが、地方に行くと昭和30年代（「Always 3丁目の夕日」？）くらいの光景で懐かしいと、某企業の社長さん達が言っていた。

私自身危険な目にあつたことはなく、治安は良いと思う。物価も安く住みやすい。

日本とのつながり

首都「スリ・ジャヤワルダナ・プラ・コッテ」の「ジャヤワルダナ」は蔵相、大統領をされた方の名前で、日本にとって恩人のような方であるが、書くスペースがない。興味のある方はネットで調べてほしい。

ビジネス関係を少しだけ

英語が通じ、親日国のため、働き辛さはない。信頼できるビジネスパートナーがいれば、進出も比較的スムーズに進むだろう。会社設立は、カンパニーセクレタリをやっている所に頼めば10万LKR（7～8万円）前後の費用で済み、時間もさほどかからないが、業者次第という面はある。外国人・外国会社には、不動産保有規制等各種規制がある。また、日本・スリランカ間の送金には注意が必要である。

書ききれなかった話は別の機会に譲り、本稿で少しでも興味を持たれた方は、是非一度足を運んでみて頂きたい。